

科目名	環境学実験		英文表記	Environmentology Experiment		平成28年5月23日		
科目コード	3408							
教員名:井口 亮、磯村 尚子、平良淳誠、玉城康智 技術職員名:						修正		
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
生物資源工学科			3年	必	履修	2単位	実験	前期
科目目標 【MCC目標】	基本的な物理化学的環境要因及び生物多様性の詳細と測定方法・定量評価について学び、説明できることを目標とする。 II-E							
総合評価	定期試験(期末)の30%+発表資料・レポート70%で評価し、60%以上を合格とする。							
科目達成目標とJABEE目標との対応	目標割合	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)	達成度目標の評価方法	ルーブリック				
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック	
	50%	① 環境要因・生態系の各項目と人間生活との関連を理解することができる。	環境の物理的(温度等)、化学的(栄養塩類等)要因及び生物多様性に関する基礎知識を試験によって評価する。	環境影響評価・生物多様性評価の目的を理解し、実問題に対して適切な定性的、定量的手法を選択して実践することができる。	環境影響評価・生物多様性評価の目的を理解し、定性的、定量的手法を選択して実践することができる。	環境影響評価・生物多様性評価の目的を理解できる。		
	30%	② 環境要因・生物多様性の測定を行って結果をまとめることができる。	測定した環境要因・生物多様性に関するレポート課題によって評価する。	得られたデータの意味を理解し、定性的、定量的解析を柔軟に実践することができる。	得られたデータの意味を理解し、定性的、定量的解析を実践することができる。	得られたデータの意味を理解できる。		
20%	③ 基準となる環境要因・生物多様性の値と比較することで結果の解釈ができ、解決策の提案ができる。	測定した環境要因・生物多様性のデータ解析をレポート課題によって評価する。	得られたデータの要点を理解して記述し、改善点を示すことができる。	得られたデータの要点を理解して記述することができる。	得られたデータの要点を理解できる。			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4				
	◎		○					
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合								
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック	
評価項目		30	0	60	10	100		
基礎的理解	①②③	20		30		50		
応用力(実践・専門・融合)	①③	10		20	5	35		
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)	②			10	5	15		
主体的・継続的学修意欲	③					0		

